

「福島両親に報告したい」



元氣いっぱいダイヤモンドを駆け回る野辺地西高1年の赤井智哉選手。13日、青森市営球場

高校野球青森大会開幕

大熊町出身 野辺地西高・赤井選手

喜びかみしめ全力プレー

13日に青森市営球場で行われた全国高校野球選手権青森大会の開幕戦。五回コールドで初戦を突破した野辺地西高1年の赤井智哉選手(もは、途中出場ながら回ってきた2打席で出塁、ホームを踏む活躍を見た。赤井選手は福島第一原発事故が起きた福島県大熊町の出身。「いいスタートが切れた。まずは勝利を、そして試合に出られたことを福島の両親に報告したい」。大量の汗を滴らせながら見せた笑顔には、新天地での充実感がにじんでいた。

【12日に関連記事】

昨年の秋、赤井選手たという。は甲子園を夢見て、福島県内外の強豪校を見学し、このチームなら甲子園に行ける。自分自身も上を目指せる。野辺地西高も上を目指せる。野辺地西高を見学した福島県内の複数の高校を訪れ練習を見学した。福島県内の複数の高校を、レベルの高い部員からも誘いを受けている。5月と離れておらず、松市のアパートに暮らす。原発事故は依然収束していません。野辺地西高への翌12日から家族で同県です。原発事故は依然収束していません。

進学を決意した。田村市での避難所生活を余儀なくされた。中学校の卒業式が行われた3月11日、東日本大震災が発生した。現在、父はいわき市に単身赴任中で、母と自宅と福島第一原発は、中学2年の弟は会津若松市のアパートに暮らす。原発事故は依然収束していません。

束しておらず、大熊町の自宅に戻れるかは分からない。そんな状況でも、家族は温かく送り出してくれたという。

青森東高平内校舎との初戦、赤井選手は内野手としてベンチ入りした。三回に代打出場を告げられ、1年生で試合に出られる機会なんてなかなかないと奮起。死球で出塁すると、次の打者の二塁打で一気に生還した。

先頭打者として迎えた四回には中前打を放つ。中堅手が打球の処理にもたつく間に、「迷わず次の塁を狙った」と二塁へ。真夏の日差しが照り付けるダイヤモンドを元気に駆け回り、夏の大会デビューで2度本塁を踏んだ。赤井選手にとっての

夏は始まったばかり。人がたくさんいる。青に感謝し、次もチーム「野球をやりたい」として森の素晴らしい環境の一員として頑張りたい。(震災で)できないこと、中でプレーできること、いと次戦を見据えた。